里山学研究センター関連記事一覧（2014年度）

両丹日日新聞　2014年（平成26年）5月19日　月曜日

由良川の豊かさ実感

自然探偵団開く

希少な「アカザ」も見つける

子ら水辺の生き物探索

身近な自然に親しんでもらおうと、福知山まちづくり会社（芦田卓社長）は18日、音無瀬橋上流にある明智藪周辺で、「由良川自然探偵団―水辺編」を開いた。小学生35人とその保護者が参加し、川辺にすむ昆虫や魚をじっくりと観察。昭和小学校5年の岩城志門君が、環境省のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されている魚「アカザ」を捕まえるなど、さまざまな種類の生き物が見つかった。

中心市街地活性化の一環として、今回初めて取り組んだ。講師は、福知山市出身で昆虫生態学を専門に研究している龍谷大学政策学部講師の谷垣岳人さんが務めた。

初めに谷垣さんが、由良川の変遷について解説し、由良川にまつわるクイズをしたあと、参加者らが川べりにすむ生き物の調査を開始。安全面に配慮しながら水の中へ入り、網を使って採集したり、石の陰に昆虫が隠れていないか確認したりした。

子どもたちは、水にぬれてもお構いなしで、真剣に探し回った。谷垣さんに「これは何ですか」と、目を輝かせて質問していた。



石の裏側も入念に確認した

見つけた生き物は、アカザのほか府の準絶滅危惧種の魚「ギギ」、モクズガニなど。またハグロトンボやコオニヤンマのヤゴといった昆虫、アユ、スジエビ、巻き貝のカワニナなど15種類以上。指標生物による水質調査も行い、「きれいな水」または「ややきれいな水」と判定された。

昭和小学校1年の長谷川舞さんは「川遊びはあんまりしたことが無いけど、たくさんの生き物を見つけることが出来て、とっても楽しかった」と喜んでいた。

25日には「陸編」

引き続き25日には、明智藪やまちなかで「陸編」を開催する予定で、陸地にいる昆虫などの生き物を、子どもたちが調査することにしている。

両丹日日新聞2014年５月19日

由良川の生物 捕まえた

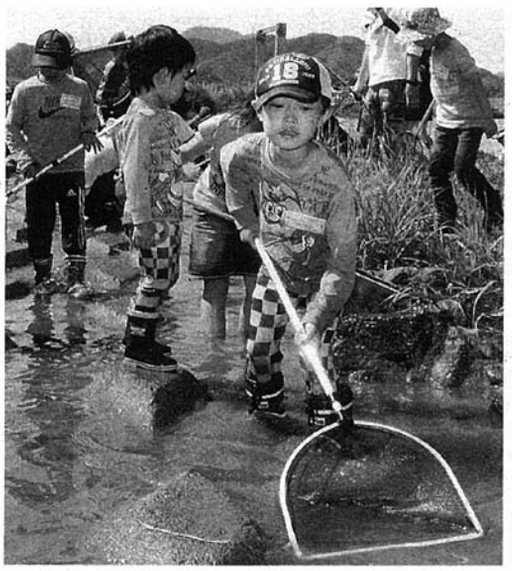
福知山 ヤゴなどに児童ら歓声

福知山市の由良川で18日、川の生物を探すイベント「由良川自然探偵団」が開かれ、小学生の親子ら約60人が参加した。

自然への愛着を感じてもらおうと、第3セクター「福知山まちづくり会社」が初めて開催。同市出身で昆虫生態学が専門の谷垣岳人・龍谷大講師が案内役となり、戦国武将・明智光秀が由良川の氾濫防止に整備したとされる「明智藪」周辺約2キロを巡った。

児童らは川にすむ魚の種類などを教わった後、浅瀬で小魚や虫とりに熱中。カゲロウの幼虫やヤゴ、カワゲラなどを捕まえて歓声を上げていた。

市立有仁小5年の荒木涼真君(10)は「身近な由良川にカメや魚が、こんなにたくさんいることに驚いた」と笑顔で話していた。



網を使って川の生き物を探す子どもら（福知山市で）

読売新聞2014年５月19日